

2008年8月1日

J・フロント リテイリング株式会社
代表取締役社長兼最高責任者
奥田 務 殿
株式会社松坂屋 代表取締役社長
茶村俊一 殿
株式会社横浜松坂屋 代表取締役社長
桜井逸美 殿

社団法人 日本建築学会
関東支部長 新宮 清志

横浜松坂屋本館の保存に関する要望書

拝啓 時下益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

日頃より本会の活動につきましてはお協力を賜り、厚くお礼を申し上げます。

さて、貴社の所有される神奈川県横浜市中区伊勢佐木町1-5の横浜松坂屋本館の建物について、本年10月の百貨店事業終了に伴い解体撤去を検討されている旨、新聞報道等であらうかと存じます。

本会では、以前よりわが国の明治・大正・昭和戦前の近代建築の調査研究に着手し、その成果を『日本近代建築総覧』にまとめ、昭和55年(1980年)に刊行いたしました。さらに、その中でも特に重要な建築作品を指摘して、その歴史的・文化的遺産としての価値を評価し、保存の意義を明らかにしようと努めてまいりましたが、横浜松坂屋本館の建物がそのリストに上げられていることは、すでにご承知のことと存じます。

別紙「見解」に示します通り、大正10年(1921年)に創建された横浜松坂屋本館は、その後いくどかの増改築を経ておりますが、デコラティブなテラコッタを要所に配したきわめて特徴的な現在の外観の主部分は昭和9年(1934年)にできあがったものと見なされます。それ以降、戦前・戦後を通じての横浜の代表的な繁華街伊勢佐木町のシンボルとして人々に親しまれ続けてきました。この建物は横浜の戦前のデパート建築を代表するものであることはもちろん、わが国の昭和初期のデパート建築を代表するものの一つでもあります。また、教育者としても建築家としてもわが国の建築の歴史に大きな足跡を残した鈴木禎次の晩年の大作であり、彼の代表作品でもあります。もちろん伊勢佐木町の中心施設であり、横浜の都市景観上においてもきわめて重要な存在であります。

貴社におかれましては、この貴重な建物の持つ歴史的価値について改めてご理解いただき、建物の取り壊しを見直して頂くとともに、このかけがえのない文化遺産の価値を最大限に考慮した保存を行っていただけますよう、格別のご配慮を賜りたくお願い申し上げます。

なお、本会はこの建物の保存に関して、できる限りのご協力をさせていただく所存であることを申し添えます。

敬具

2008年8月1日

横浜市長 中田宏様

社団法人 日本建築学会
関東支部長 新宮 清志

横浜松坂屋本館の保存に関する要望書

拝啓 時下益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

日頃より本会の活動につきましてはご協力を賜り、厚くお礼を申し上げます。

さて、貴市中区伊勢佐木町1-5に所在する横浜松坂屋本館の建物について、本年10月の百貨店事業終了に伴い解体撤去を検討されている旨、新聞報道等であっております。

本会では、以前よりわが国の明治・大正・昭和戦前の近代建築の調査研究に着手し、その成果を『日本近代建築総覧』にまとめ、昭和55年(1980年)に刊行いたしました。さらに、その中でも特に重要な建築作品を指摘して、その歴史的・文化的遺産としての価値を評価し、保存の意義を明らかにしようと努めてまいりましたが、横浜松坂屋本館の建物がそのリストに上げられていることは、すでにご承知のことと存じます。

別紙「見解」に示します通り、大正10年(1921年)に創建された横浜松坂屋本館は、その後いくどかの増改築を経ておりますが、デコラティブなテラコッタを要所に配したきわめて特徴的な現在の外観の主部分は昭和9年(1934年)にできあがったものと見なされます。それ以降、戦前・戦後を通じての横浜の代表的な繁華街伊勢佐木町のシンボルとして人々に親しまれ続けてきました。この建物は横浜の戦前のデパート建築を代表するものであることはもちろん、わが国の昭和初期のデパート建築を代表するものの一つでもあります。また、教育者としても建築家としてもわが国の建築の歴史に大きな足跡を残した鈴木禎次の晩年の大作であり、彼の代表作品でもあります。もちろん伊勢佐木町の中心施設であり、横浜の都市景観上においてもきわめて重要な存在であります。

すでに、貴市におかれましては、この貴重な建物について「歴史を生かしたまちづくり要綱」に基づく歴史的建造物に認定されていることは承知しておりますが、その歴史的価値について改めてご理解いただき、建物の取り壊しを見直して頂くとともに、このかけがえのない文化遺産の価値を最大限に考慮した保存を行っていただけますよう、格別のご配慮を賜りたくお願い申し上げます。

なお、本会はこの建物の保存に関して、できる限りのご協力をさせていただく所存であることを申し添えます。

敬具

2008年8月1日

横浜松坂屋本館についての見解

日本建築学会関東支部
建築歴史・意匠専門研究委員会
主査 大橋竜太

横浜市中区伊勢佐木町1丁目5番に所在する横浜松坂屋本館は、大正10年(1921年)に創建を見たものであり、関東大震災の後も創建時の躯体を残しつつ、昭和4年(1929年)、同9年(1934年)、同12年(1937年)の3度の大規模増改築によって今日見る伊勢佐木町通り側の外観の完成を見たものである。昭和12年の増築は昭和9年の増改築の意匠を踏襲したものであり、また戦後の昭和37年(1962年)と同38年(1963年)にも背後の福富町東通り側に相当規模の増築が見られるが、外観の主部分は昭和9年に形づくられたものと見なされる。そして、野澤屋呉服店から野澤屋、ノザワ松坂屋、横浜松坂屋と名称を変えながらも、この昭和9年の外観が伊勢佐木町のシンボルのような存在として広く人々に親しまれ続けてきたことになる。

創建時の設計者は出浦高介であるが、昭和4年、9年、12年の増改築の設計者はいずれも鈴木禎次(1870-1941)であり、したがって今日の外観を決定したのは鈴木ということになる。鈴木は長年にわたって名古屋高等工業学校建築科長を務め、退官後は名古屋に設計事務所を設けて各地の松坂屋本・支店をはじめ多くの作品を設計しているが、横浜松坂屋は彼の晩年の大作であり、彼の代表的な現存作品ということになる。施工は創建時以来、一貫して竹中工務店である。

横浜松坂屋本館は鉄筋コンクリート造7階建て、地下1階、塔屋付き、建築面積3212.83㎡、延床面積21597.50㎡の建物である。その外観の最大の特徴は、全面が白い四丁掛のタイルで覆われ、かつ要所にきわめて濃密な意匠を施されたテラコッタが配されていることである。その意匠は、わが国のアール・デコの代表例とも見なしうる。

横浜松坂屋本館は横浜の戦前のデパート建築を文字通り代表するものであり、わが国の昭和初期のデパート建築を代表するものの一つでもある。教育者としても建築家としても日本の近代建築史に大きな足跡を残した鈴木禎次の晩年の大作であり、彼の代表作品でもある。もちろん伊勢佐木町の中心施設であり、その都市景観上の重要性をはじめ横浜の歴史に占める重要性は計り知れない。

なお、この建物は『日本近代建築総覧』(日本建築学会、1980年)をはじめ、多くの文献にとりあげられており、広く人々に知られている。平成2年(1990年)には横浜市教育委員会文化財課によって実測調査が実施され、その成果は『横浜の近代建造物 横浜市近代建造物調査報告書』(横浜市教育委員会、1994年)に収載されている。また、平成16年(2004年)には、横浜市の歴史的建造物に認定されている。